

公民館パワーアップ講座(第1回)

平成28年6月2日(木) 青森県総合社会教育センター 第1研修室

平成28年6月2日(木)、青森県総合社会教育センターにて「公民館パワーアップ講座(第1回)」を実施しました。今年度は弘前大学名誉教授 佐藤 三三 氏を講師にお迎えし、「公民館運営の現状とこれから～学校支援の在り方を探る～」と題して御講義をいただきました。後半は、佐藤 三三 氏をコーディネーターとし、パネリストに弘前市立中央公民館岩木館専門員 庄司 輝昭 氏、八戸市立根岸公民館館長 江戸 清 氏の両氏を迎え、「わたしの公民館運営のポイント」と題してパネルトークを行いました。

公民館職員や市町村教育委員会職員を中心に、県内各地より54名の参加者が集まりました。

講義「公民館運営のこれから～学校支援の在り方を探る～」

1 公民館、社会教育の現状

- ・予算の縮減、派遣社会教育主事制度の打ち切り等、公民館や社会教育は決して良い状況にはない。また婦人会や青年団などの活動の衰退により、公民館の基盤が弱くなってきている。
- ・社会教育が学校教育を補足する事業(学校支援地域本部等)が推進され、子どもの教育に重みが置かれる傾向にある。しかし、実は大人こそが勉強したがっている。大人の社会教育は物事を考える力や見通す力を付けていくものであり、民主主義を支える重要なものである。



講師 佐藤 三三 氏

2 公民館の特質

① 存立基盤としての地域性(地縁)

- ・公民館は、国民・県民などの幅広い人間を対象にするのではなく、地域の人々との繋がりの中にあり、地区に住んでいる住民一人一人のためにある。この点で図書館や博物館と大きく異なる。

② 事業の総合性

- ・公民館は様々な分野を教える地域の学校であり、政治・経済・社会・文化の再分岐機能を持つ。分野が多岐にわたるため、公民館は図書館や博物館と比べて事業内容を説明しづらい面がある。



③ 方法の集団性

- ・個人で学習する図書館と異なり、公民館は集団学習を奨励している。「あなたの問題は私の問題。私の問題はみんなの問題。」という集団学習の考え方が、公民館での学習に広がりや深みを加えていく。

3 公民館のこれから向かうべき方向

- ・良い事業を作るためには、**現在実施している事業を頑張ろう**。これにより事業の試行錯誤ができる。
- ・公民館は可視化が必要である。地域住民にとって公民館が**何をやっているか見えるようにしよう**。
- ・館内活動とともに館外活動を大切に、**積極的に外に出よう**。図書館や博物館は人ともものを、公民館は人と人とを結びつける役割を持つ。住民が知りたいことを探し、学習者を集めることも重要な仕事である。
- ・**町内会と結びつこう**。町内会は他の機関と連携するための手立てをたくさん持っている。

4 学校と公民館の関係について

- ・かつては、社会教育が学校教育に助けられていた。今は社会教育が学校教育のカリキュラムを助けている。
- ・平成18年に改正された教育基本法は、第13条(学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力)が「学校

を家庭や地域が援助しなさい」と曲解されている傾向がある。

- ・ **子どもの地域での生活に働きかけ、子どもを変革させる**のが社会教育の役割のひとつである。今の社会教育は、本来子どもにするべき教育をしているだろうか？ 子どもの知的・文化的・肉体的な成長を図る社会教育がおろそかになっていないだろうか？

パネルトーク「わたしの公民館運営のポイント」

弘前市立中央公民館岩木館の取組 庄司 輝昭 氏

- ・ 「バーチャル公民館」とも言える「学区まなびい講座」では、地域住民が運営委員会を開き、自分たちが学びたい講座を自主的に企画・運営し、中央公民館担当者が相談に応じている。
- ・ 太田市との交流事業や「子どもの祭典」では、高校生や大学生をスタッフとして運営に参加させ、次代を担う若手を育成している。
- ・ 社会教育は「今ある社会をより良い形で次の世代に引き渡す営み」だと考える。
- ・ 公民館の特性として地域性・総合性・集団性があるが、公民館が教育委員会の中にあると首長部局との連携が図りづらい。特に事業の総合性を考えると、公民館は教育委員会の中になくても良いのではないだろうか？ 教育委員会の中になくても公民館が持つ地域性から、学校との連携等には支障がないと考える。
- ・ ジャズ講座では、若い男性が多数参加してくれた。バレエ講座では幅広い年代の女性が集まった。講師の選定にはこれまでの人脈に加え、フェイスブック等のSNSも活用した。



パネリスト 庄司 輝昭 氏

八戸市立根岸公民館の取組 江戸 清 氏

- ・ 八戸市では各公民館とも共通して、公民館活動教室、女性学級、高齢者教室、市民学校、家庭教育学級の計5分野で講座を運営している。
- ・ 根岸地区では相互理解と協力を容易にすることを目的として、地区内のボランティアグループを「アスネットねぎし」として組織化しており、根岸公民館がその事務局を担当している。このことから、八太郎ヶ丘公園清掃では運営補助、馬淵川河川敷清掃では参加呼びかけなど、主催以外の行事にも積極的に関わっている。
- ・ 八戸市では「地域密着型教育」を推奨しており、学校支援に携わっている。根岸公民館では水曜日と休日に小学生のための講座「すくすくスクール」を実施している。
- ・ 移動教室では利用者の要望が年々高くなる傾向にあり、全てをかなえることは難しい。受講予定者が直前に講座をキャンセルした際の材料費の補填等、予算面の苦労もある。



パネリスト 江戸 清 氏



〈参加者のアンケートから〉

- ・ 社会を良くするためには大人の勉強が第一。大人を磨けば社会が光る。明日から頑張る勇気が出ます。
- ・ 公民館の現状から今後の方向性まで、大事なポイントを教えていただきました。最後の「子どもの地域での生活の働きかける」の一言が、難しいがその通りだと実感しました。
- ・ 講座の組み方等での苦労はどこも一緒です。情報収集やニーズのアンテナを張ることなど、講座を意識した生活が必要だと感じました。
- ・ 人との繋がり、人脈、発想が大事。今後の講座や活動の参考にしたいと思った。